

第29回

ICTワークショップ シヨツプ。

2022

4/21 (木) 16:00~17:45

AIを駆使した画像認識による
異物検出、
サービス開発におけるプログラ
ムマネージャの役割、
Pythonを100倍高速化する
Cython

要申込

詳しくはこちら



主催：  国立大学法人
電気通信大学

企画：UECアライアンスセンター運営支援室

プログラム

(1) 「「AI搭載画像認識・検査支援システム」のご紹介」

西野 誠司 氏

(株式会社シーデックス 稲城開発部 ソフトウェアGリーダー)

魚卵加工業者様向けに、シーデックスが自社製品として開発した「AI搭載画像認識・検査支援システム」のご紹介を致します。工場の生産ラインにおいて目視検査する作業員の負担軽減・および生産性の向上を目的に開発したもので、AI画像認識を使って異物をリアルタイム検出します。本製品の特徴や開発で苦労した点など、率直にお話しします。

(2) 「サービス開発の今と将来の展望」

松田 徹 氏

(株式会社ダブルシャーププラス 代表取締役社長)

日本のシステム・サービス開発において、あまり耳にすることのないプログラムマネージャという役割をWindowsやInternet Explorerの開発時の経験を踏まえながら簡単に説明し、今必要とされている人材像と役割を踏まえながら将来のサービス開発の関わる方向性の一つをお話します。

(3) 「Python に少し手を加えるだけで100倍高速にできる Cython」

藤原 博文 氏

(株式会社タイムインターメディア 知識工学センター 執行役員)

Pythonが非常に普及し、AIに限らずあらゆる分野のプログラムがPythonで作られています。Pythonのプログラムは非常にとっつきやすく、気楽に、かつ短時間で書けます。しかし、動かし始めると、非常に遅くて困り、利用を断念することも少なくありません。これを解決するために、一般のPythonプログラマがわずかの学習で高速プログラムを開発できるCythonが開発されました。Pythonの主要なライブラリも実はCythonでできていて、Pythonのプロジェクト・ライブラリの充実に貢献しています。Cythonを習得し、学習・研究・開発を高い生産性で行いましょう。100倍高速になれば、世界が変わります。

(4) 「運営支援室からのお知らせ」

UECアライアンスセンター運営支援室